

# PLANET HOME★

SHIBAKAWA Toshiyuki

ぼくのおくさん★柴川敏之展

2018.9.8.sat-11.25.sun

ゲストキュレーター★柴川弘子 [ESD研究者]

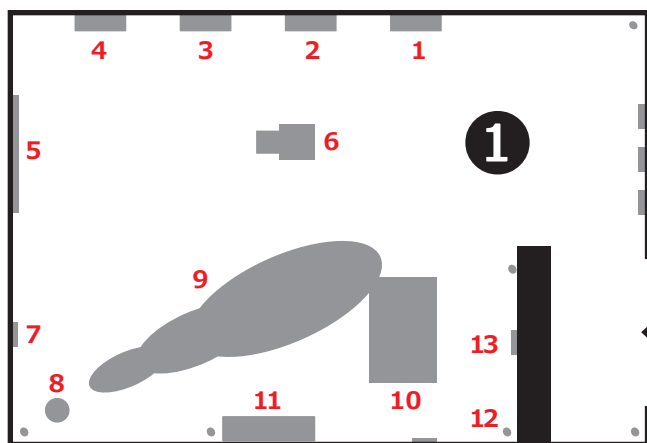
夫婦×アート×ESD




柴川敏之展


## 作品配置図

### 第1会場：3階



⑥ インスタ用（記念写真）  
撮影コーナー

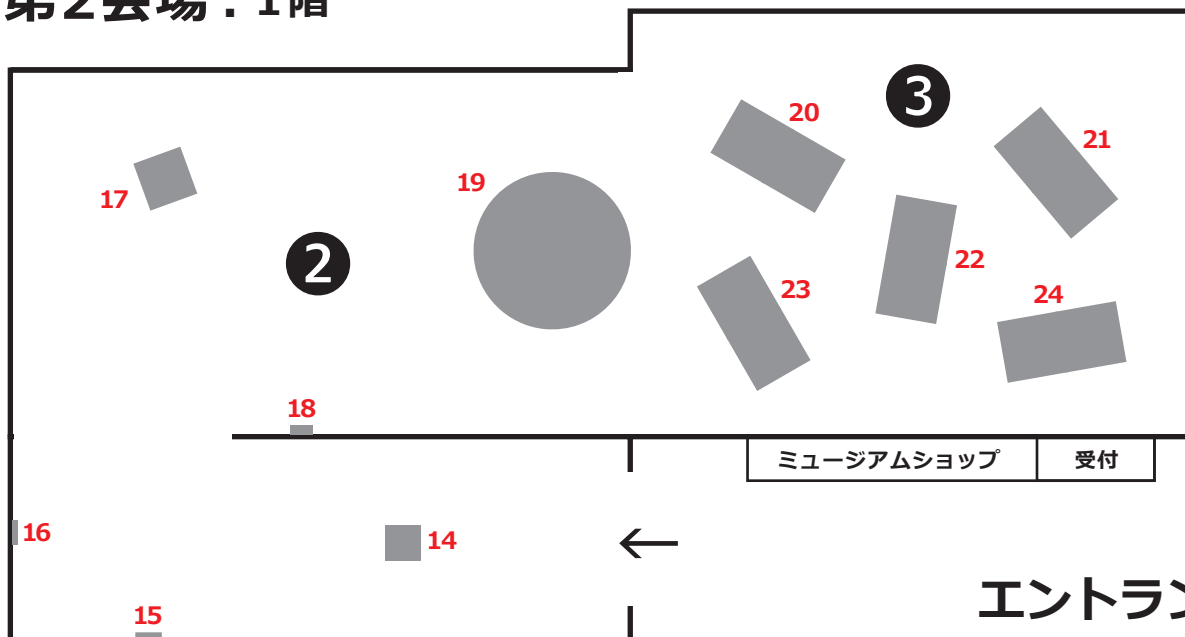
 写真撮影 OK!!  
\*ただし、フラッシュとビデオ撮影は、ご遠慮ください。  
\*SNSは、ハッシュタグ「#ぼくのおくさん」または「#つなぎ美術館」でご投稿ください。

 お手を触れないでください。

### 喫茶室：2階

⑤ 本展特別メニュー  
「鬼嫁コーヒーセット」

### 第2会場：1階



### エントランス：1階

④ 関連図書コーナー

# 鑑賞のキーポイント

## ごあいさつ

住民参画型アートプロジェクトの一環として 2018年4月に始まった現代美術家の柴川敏之氏による「ぼくのおくさん☆プロジェクト」の成果展として「ぼくのおくさん☆柴川敏之展 PLANET HOME」を開催いたします。

柴川敏之氏は、日常の見慣れた品々を化石にすることで 2000 年後の未来から現代を俯瞰し、社会に潜在する数々の問題を露わにする展覧会を全国各地で開催してきた日本を代表する現代美術家のひとりです。柴川氏の住民参画型アートプロジェクトへの招聘が決定した 2015 年以降、柴川氏も当館も経験したことのない新たな展覧会を開催するため、さまざまなアイデアを出し合い検討を重ねてきました。そのような中、柴川氏が妻で ESD (Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育) 研究者の弘子氏から皮肉交じりに「2000 年後も良いけど、自分の足下 (家庭内) が炎上しているわよ！」と言われたことを当館学芸員に話したことがきっかけとなり、当プロジェクトと成果展のアイデアが生まれました。

これまで、弘子氏は柴川氏の作品や活動に関して本人に感想を伝えることはあっても制作や展示に関わることはありませんでした。ESD 研究者の弘子氏をゲストキュレーターに迎え、事例を広く集めながら夫婦間の課題を切り口に社会問題を考える今回のプロジェクトと成果展の開催は、柴川夫妻と当館にとってはもとより、おそらく国内外の美術館としても先例のない新たな試みとなります。現代美術と ESD は類似点が多く親和性も高いと考えられます。本展が身近な問題を切り口に社会問題を考える契機になるとともに、現代美術と ESD の接近を促す機会になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、本展の開催にあたりご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

主催者

---

## ESD とは？

ESD とは「持続可能な開発のための教育 Education for Sustainable Development」の略で、今、世界各地でさまざまな活動が展開されています。2002 年のヨハネスブルグで行われた国連サミットで日本からの提案で「ESD の 10 年」を通じて ESD を推進していくことが満場一致で採択され、ユネスコがその推進機関に指名されました。2014 年には日本 (名古屋・岡山) で最終年会合が行われました。ESD の「教育」は、学校教育だけではなく、社会教育や企業内教育、あるいはボランティア活動など、さまざまな場における、あらゆる人の学び合いの場のことを意味します。現在、私たちの社会は、環境、経済、社会、文化の様々な面で持続可能性の、グローバル規模かつ複雑に絡み合う問題に直面しています。ESD はこれらの問題に身近なところから共に取り組み、それらを通じて持続可能な社会をつくるための力をつけていくことを目指しています。

---

## プロフィール

### 柴川敏之

現代美術家。1966 年にアルベルト・ジャコメッティの命日 (1966.1.11) に大阪府で生まれる。広島大学大学院修了。1980 年に広島市へ移住し、学生時代から自ら絵具を作り被曝建物をモチーフに絵画制作を行う。1993 年に広島県福山市へ移住し、イタリアのポンペイ遺跡や広島県福山市の草戸千軒町遺跡に触発され、「2000 年後に発掘された現代社会」をテーマに制作を始める。1997 年に文部省在外研究員としてイタリアに滞在し、フレスコ画やポンペイ遺跡の研究を行う。2010 年から結婚を機に岡山市に在住。

当初は「2000 年後の発掘現場」のインスタレーションを展開し、近年ではそこから発掘された出土品 (化石) タイプの作品を絵画的技法を用いて制作している。作品単体の展覧会だけでなく、様々なモノ (考古資料、美術作品、骨董品、遺物、商品等) とのコラボレーション展示も展開している。国内外のミュージアムをはじめ、歴史的建造物や商店街など、地域や場所にこだわった展覧会やプロジェクトを行っている。また同時に多様な人々を対象にしたワークショップを行い、物の存在や現代の諸問題を見つめ直す活動を続けている。

柴川敏之 HP : [www.toshiyuki-shibakawa.com](http://www.toshiyuki-shibakawa.com)

### 柴川弘子

研究者 (ESD / 社会教育・生涯学習)。岡山県出身。学生時代、直島でのアーティストの通訳経験を機に現代アートに関心を持つ。高校英語教員を経て、2011 年より神戸大学大学院・人間発達環境学研究科にて ESD・生涯学習理論を研究。2012 年より岡山大学大学院・教育学研究科 ESD 協働推進室コーディネーターとして、主に学校の ESD 実践支援、教員研修、社会教育との連携事業などの支援を行う。論文：「ESD における Education『教育』概念の批判的検討」(2017 年) 他。

# 第1会場：3階

## ① Home, Sweet? Home | 楽しき? 我が家

夫婦共働き。可愛い盛りの息子との暮らし。一見すると平和で幸福に見える柴川家。しかし、実際は毎日“事件”が勃発し、妻にとっては平和も幸福も、安らぎさえも感じられない日々が続く。仕事や健康、家事、育児、そして障がいや認知症、介護の問題と、諍いの種が家中に渦巻いている。特に子どもが誕生した時から、まるでパンドラの箱が開いたように次から次へと。

夫婦がそれぞれ問題視してきた“現代社会の持続不可能性”というパブリックな課題は、最も身近な「ホーム」の中に立ち現れているのである。ところが、こうした「ホーム」での夫婦の問題は、ごくプライベートなこととして、相性、男女差、時には精神論のようなもので処理されがちである。しかし、この違和感や葛藤こそ、共有されることによって、私たちがパブリックな問題へと立ち向かう原動力となるのではないだろうか。

- 1 「Bad Mother 万歳」 \*初育児・保活・待機児童。ハイヒールと搾乳機は妻にとって救世主だが、同時に罪悪感とプレッシャーが入り混じった思い出の品。1~4の4コマ漫画は、人気インスタグラマーのブブ (booboo.piyo) さんが本展のために描いたものです。
- 2 「IKUMEN 礼賛」 \*育メンという現象・言葉に対する違和感。実態は程遠いにも関わらず周囲からの過剰な礼賛に妻は余計に苛立つ。
- 3 「再生産—reproduction」 \*まるで客のような父、動き続ける母。これを再生産しないよう妻は努力するが、夫はその術を知らない。そのうちは父母の姿をインプットする。
- 4 「めしたき」 \*育児というフルタイム労働に加え、夫を育てることまで要求される現代の働く母。専業主婦の姑とも噛み合わない。
- 5 「未来の窓一つなぎ」 \*このプロジェクトの実行委員会のメンバーが、未来に残したい津奈木の風景に、柴川作品（2000 年後に発掘された招き猫の化石）を置いて撮影した写真。全50写真。
- 6 「きぼう」 \*家族の中心である幼い息子の姿に似せた、オムツをはいたキューピー人形。慌てて閉めたパンドラの箱に残ったのは「希望」で、故に人類は絶望しなかったのだという。
- 7 「8:30の涙」 \*保育園に入園した途端、毎朝8時30分の登園時刻に向かって家は壮絶な戦場と化していく。
- 8 「きょうりよく」 \*夫婦間において「協力」という言葉の解釈そのものに違いがあるようだ。夫は「助ける」。妻は「責任を持つ」。埋められない溝。
- 9 「パンドラの箱」 \*妻は余裕がなくなると、アート作品が無価値なゴミのように見えてくる。そのような社会こそ持続不可能ではないか、と我に返ることもある。
- 10 「Plasticな食卓」 \*多忙になる程に、家中に、そして食卓の上に、便利で手軽なプラスチック製品が並ぶ。それに罪悪感を覚えるのは妻ばかり。
- 11 「80パーセントの誤解」 \*夫は8割仕上げたつもりで洗いの物。妻にとってはたったの2割。「助かった?」「それ、責任持っていない証拠でしょ。」永遠に噛み合わない。
- 12 「そこに置かれて」 \*床に散乱した夫の靴下を拾い歩き慣る妻。夫は置いているだけと言う。価値観、習慣、思想、文化の違いをどう乗り越えられるのか。会場内に10足の靴下の化石（息子の靴下も含む。まさに再生産！）が点在しています。
- 13 「きょういく」 \*部分的に手伝うだけで、「仕事もして育児もして」と礼賛される夫。懸命に働いても「育児もしないで仕事して」と責められる妻。それに加えて「産め」・「輝け」・「活躍しろ」の大合唱。社会を変えるためには、一体どれほどの教育を必要とするのか。

## ⑥ インスタ用（記念写真）撮影コーナー

フォトプロップス（吹き出しの小道具）を持って写真を撮ってみませんか？ 第1会場の中で、お楽しみください！

フォトプロップスを前に差し出して大きく写してみましょ！（使用後は元の位置にお戻しください）

SNS（インスタグラム、フェイスブック、ツイッター等）のご投稿などにもご活用ください。

\* SNS は、ハッシュタグ「#ぼくのおくさん」または「#つなぎ美術館」でご投稿ください。



## 第2会場：1階

### ② Myths about Care | ケアという神話

私たちは何を最もケアして生きているのだろうか。ケア (Care) という言葉は、ケアハウス、緩和ケア、心のケアのように、日本では主に医療や福祉の場面で対人・直接の介護・介助、世話する行為を指す。愛情を要求されるケアの担い手は多くが女性である。さらに、移民労働者がサービスを担うようになってきている。低賃金で、時に無償の労働。いのちを育み、いのちを看取る。このいのちを持続させるという人々の最も重要な仕事が、常に私的なこととして脇に置かれるのはなぜか。

ケアは本来「配慮する」との意で、いま、ここで、見えていないいのち一過去に生きた人々、未来に生きる人々、遠く離れて生きる人々、動植物一への配慮をも含む。近代化の中で、私たちが利便性と引き換えに失ったこととは、この意でのケアする力かもしれない。

ここでは、ESD とアートの両軸で「ケア」を問い直していく試みを行う。ケアの葛藤、理念と実生活の矛盾、社会の発展に対する違和感。様々なストーリーを交錯させ、家の内と外の境界を融解させていく、あるいはつないでいく実験である。

- 14 「A Doll's House」 \*時代と文化を超えて人気のドールハウスは、薄気味悪いほどリアリティーに欠けて見える。人間として扱われていないことに気づいた妻が、夫と家を捨て、19世紀の社会に衝撃を与えた戯曲『人形の家』(イブセン作)へのオマージュ。
- 15 「お世話」 \*妻は生後1ヶ月の赤ん坊を抱え、車椅子生活になった夫を介護。回復した頃に実父の闘病生活と死。オムツと尿瓶を見ると今もざわつきを覚える。
- 16 「イエナシ HOMELESS」 \*微笑みを湛えているようにも悲しみを湛えているようにも見える能面。自身の心を写す鏡のようでもあり、時代や社会によって左右される女性の立場にも見える。ケアあるいはケア労働における複雑な心情を描くことをインスピレーションさせたモチーフ。
- 17 「Who CAREs?」 \*車椅子を押す、押ししてもらう。車椅子の姿は普遍的であるが、そこに触れる多様な心と身体、ケア関係、紡がれる無数の物語の一つとして同じものはない。"Who cares?"="誰が気にするもんか?" 産業・資本経済中心社会において無き者にされてきた「ケア」を問うための作品。
- 18 「ファミリーのために」 \*一体何のために、誰のために私たちは働いているのだろうかーケアをサービスに任せて、環境を汚染しながら、家族のために、あるいは家族を犠牲にしてまで。家族というシステムに収まることで、見えなくさせられているものがあるのかもしれない。
- 19 「プロメテウスの木」 \*「持続可能な開発」を否定し、資源は枯渇しないと主張する人々をプロメテウス派と呼ぶ。火を盗み人間に与えたプロメテウス。ゼウスは激怒し、災いをもたらすものとして「女性(パンドラ)」を創り、箱を持たせて彼の元へ送り込んだ。それは盛り高ぶる人間への戒め、かつ古代神話にまで練り込まれた女性差別思想。電気、車、通信・・・化石燃料を使ったテクノロジーを享受する一方で、失われる力とは何か。キツネにばかされなくなった世界が平和で発展した社会なのか。命、人生、自然界、そして地球の象徴としての木を通じ、矛盾にまみれた「開発」を問う。

### ③ All Things in Universe | パートナーたちの宇宙-森羅万象

「ホーム」における葛藤の中には、持続可能な社会へのヒントがあるのではないだろうか。「ホーム」は、共同生活の場や居場所、ふるさと、あるいは人類の行き着く先、といった心理的な場のことも意味する。それは、人が自らと他者のいのちを「ケア」して生きるすべての空間のことを指すのかもしれない。すなわち、地球や宇宙までも「ホーム」と捉えることもできる。

ここでは、プライベートに押し込められがちな小さな声や物語を拾い上げ、集め、あるいは交差させ、それらを未来へのエネルギーに変えていくための試みをおこなう。理解しあえない相手と共に暮らし、ケアし、いのちをつなぐ。理解できないからこそ生まれる相手へのケアと敬意。ここから自然との共生、異文化理解、そして平和構築への示唆を求めていけないだろうか。

最も小さな「ホーム」での、さまざまな葛藤-「夫婦の事件簿」をオープンにし、それらで織りなす「ホーム」の遺物・遺跡から浮かび上がるものは何か。「ホーム」を希求してやまない私たちの深層に迫ると同時に、来るべき社会のあり方ー未来のHOMEを問うていく。

- 20 「夫婦の事件簿」の展示と写真(大)
- 21 「夫婦の事件簿」の実物展示と写真(大)
- 22 「夫婦の事件簿」写真(大)
- 23 「夫婦の事件簿」の実物展示と写真(大)
- 24 「夫婦の事件簿」のファイル展示と写真(大) \*このファイルのみ、手にとって自由にご鑑賞ください。

「夫婦の事件簿」は、会期中も募集しています。  
応募方法は、6ページをご覧ください。



## 4 関連図書コーナー：1階

本展の関連図書をご覧いただけます。柴川氏の図書、ESD 関連図書、本展の企画で参考にした図書、絵本などを揃えていますので、ゆっくりとご覧ください。

なお、1階受付のミュージアムショップで販売している図書もございます。

## 5 喫茶室：2階

### 本展特別メニュー

◎「鬼嫁コーヒーセット」：500円(税込)

◎単品「鬼嫁コーヒー」：400円(税込)



柴川家の器でご賞味ください!!  
(お客さまによって器が変わります!)

セットメニューは、コーヒー(\*1)とラスク2枚(\*2)のセット。

\*1：岡山から仕入れた、赤米をブレンドした身体に優しいカフェインレスコーヒー。

\*2：つなぎ美術館のある芦北郡内で作られた「岬の御塩」を使ったラスク2種類(シュガーバターと黒糖)。

---

## 関連企画

### [関連企画1] アーティストトーク

◎日時：2018年9月8日(土) 14:00~15:00 ◎場所：つなぎ美術館 展示室 ◎話し手：柴川 敏之(現代美術家)

◎料金：観覧料のみ ◎定員：20名(事前申込不要・当日先着順)

### [関連企画2] トークセッション「アートで迫る夫婦新悲喜劇！」

◎日時：2018年9月9日(日) 14:00~15:00 ◎場所：つなぎ美術館 展示室 ◎出演：柳沢 秀行(大原美術館学芸課長)、柴川 敏之(現代美術家)、柴川 弘子(ESD研究者)、司会：楠本智郎(つなぎ美術館学芸員) ◎料金：観覧料のみ ◎定員：30名(事前申込不要・当日先着順)

### [関連企画3] ESDカフェ in つなぎ「未来のHOME -暮らし・コミュニティ・地球-を語る」

◎日時：2018年10月14日(日) 14:00~15:30 ◎場所：つなぎ美術館 アトリエ ◎出演：原 明子(ESDコーディネーター)、一川 大輔(作業療法士、福祉用具プランナー)、柴川 敏之(現代美術家)、ファシリテーター：柴川 弘子(ESD研究者) ◎料金：観覧料のみ ◎定員：20名(事前申込不要・当日先着順)

### [関連企画4] ギャラリートーク

◎日時：2018年11月10日(土) 14:00~14:30

◎場所：つなぎ美術館 展示室 ◎話し手：楠本 智郎(つなぎ美術館学芸員)

◎料金：観覧料のみ ◎定員：20名(事前申込不要・当日先着順)



インスタで  
好評♡



PLANET  
HOME  
SHIBAKAWA Toshiyuki

このエコバックは、  
人気インスタグラマー・プブさん  
とのコラボで作成したものです。

ぼくのおくさん☆柴川敏之展 | PLANET HOME

## 本展のオリジナル エコバック

「夫婦の事件簿」に応募すると、無料プレゼント!

1階ミュージアムショップでも販売中：400円(税込)

エピソード

## 「夫婦の事件簿」大募集!

応募者で希望される方全員に、本展のオリジナルエコバックをプレゼントします。  
集まった事件簿は、③のコーナーに追加して展示していきます。

- 応募内容：事件名などを記入し、その写真を添えて、ペンネームでご応募ください。
- 応募方法：以下の特設ホームページからご応募ください。
- 応募〆切：2018年 11月25日(日)



本展の特設ホームページ

<https://www.bokunookusan.com>



- ◎展覧会場：つなぎ美術館
- ◎観覧料：一般300円 高大生200円 小中生100円
- ◎開館時間：午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◎休館日：水曜日(祝日の場合は翌日)
- ◎主催：津奈木町、つなぎ美術館、ぼくのおくさん☆プロジェクト実行委員会
- ◎助成：(公財)水俣・芦北地域振興財団
- ◎企画協力：柴川弘子(ESD研究者)
- ◎漫画制作：プブ(booboo.piyo)
- ◎企画：楠本智郎(つなぎ美術館学芸員)

※この事業は、水俣芦北地域振興計画に基づく地域振興事業として、水俣・芦北地域振興財団の助成により実施しています。